



東和木材センター（登米市東和町米川地区）

もり 登米の森林 から 第3号

＜共同執筆・編集＞

宮城県登米地域事務所林業振興部
登米市産業経済部農林政策課
登米町森林組合
東和町森林組合
津山町森林組合

CONTENTS

- ◆ 巻頭言 …… 1
- ◆ ハイ！こちら森林組合 …… 2
- ◆ 森林づくりの技術 …… 3
- ◆ 登米市NOW！ …… 4
- ◆ ふるさとの自然案内 …… 5
- ◆ シリーズ・インタビュー
ヤマで働く！ …… 6
- ◆ トピックス …… 7
- ◆ コラム …… 8

「登米の森林から」

もり
森林・林業の好循環による地域の健全な森林づくりを目指して！



東和町森林組合
代表理事組合長
佐藤 芳男



森林整備の推進（間伐と森林作業道の開設）

- ▶ 森林の「緑のダム」としての働きや、二酸化炭素の吸収、土砂の流出や崩壊などの災害を未然に防ぐ機能など、森林は私たちの暮らしを支える国民共有の財産です。
- ▶ 戦後造林された東和町の森林(民有の針葉樹人工林)は約6千haで、88%が8齢級(36~40年生)以上で、160万㎡にも達したこの森林資源は、今まさに収穫と利用の時期を迎えています。先人が苦労を重ね植林から始まり、手入れをしてきたお陰で、今日の森林があることは言うまでもありません。
- ▶ 木材の利用は、製材や合板用材に止まらず、最近では木質バイオマス発電やCLTなどの新たな需要の創出

- に伴って、一層価値が高まっています。
- ▶ 国の制度は「植える林業から収穫する林業」へと大きく政策を転換し、施業を集約化して森林経営計画を作成した者が、国の支援を受けられる仕組みへと変わりました。
 - ▶ この大切な森林を次代に適正な状態で引き継いでいくため、行政や関係団体との緊密な連携を図りながら、きめ細かい“森づくり”計画の作成や実行の役割をしっかりと担い、地域とともに歩み、当町森林の整備推進にこれからも努めてまいります。

★地域の林業担い手を育成しています★

「緑の雇用」フォレストワーカー研修での1コマ
木材センターの丸太を鷹口(とびぐち)一丁で
操る訓練プログラム【奥が1年目研修生】



ハイ！ こちら森林組合！

森林所有者の協同組合である森林組合は、森林（もり）づくりの主要な担い手として、地域の森林が適切に整備・管理されるよう努めています。特に、収穫時期を迎えた木材資源を有効に活用しつつ山林の価値を高める「利用間伐」や「耐久性のある作業道開設」等を推進しており、これらを効率的な作業システムにより低コストで行う「集約化施業」を、県や市と連携して全力で展開しているところです。

このコーナーでは、登米市内の森林・林業地域において、森林整備のみならず様々な活動を行っている3つの森林組合の情報やお知らせをお届けします。森林・林業・みどりに関するお問い合わせは、是非森林組合へ！

登米町森林組合

林業機械化の先駆け

当組合では「人づくり・森づくり・森林資源の有効活用」を掲げ事業を進めています。今号では「森づくり」について書かせて頂きます。



陵岑(リョウシン)号1号車

林業における機械化の進展は、生産性の向上やコストの削減、労働強度の軽減などに大きく貢献しています。本組合では全国でもいち早く林業の機械化に着手してきた歴史があります。昭和45年にベンツのウニモグ（多目的運搬車）を導入、昭和52年には地元自動車会社が製造した林内運搬車・陵岑（リョウシン）号1号車を導入（写真）しました。

その後昭和57年からプロセッサ、フォワーダ、タワーヤダを順次導入してきました。当時、林業の機械化が急速に進行する中で、生産コストの削減につながる作業体系の確立や安全対策、人材育成が大きな課題となっていました。そこで本組合では平成3年に林業機械化特別班（FMP：Forest Machine Project team）を発足させて、“森と人と機械の調和のとれた生産体制づくり”に着手しました。以降、地元の若者を雇用した担い手の確保・育成や就労環境の改善を進め、現在に至っております。当組合では現在、ハーベスタ1台、バックホウ2台、林内運搬車3台を所有しており、FMPが作業にあたっています。



ハーベスタ(平成21年導入)

東和町森林組合

「間伐からの収穫 そして循環する資源へ」

東和町の充実した森林資源を活用するために以下の項目に重点をおき、森づくりを実施してまいります。

○集約化による森林経営計画の策定推進

将来の価値ある山づくりに向けて、1団地あたり100ha規模での集約化を進め、森林経営計画の策定を推進していく。

○利用間伐の推進と人材育成

今年度高性能林業機械(グラップル付バックホウ)を新たに導入予定であり、現在保有している高性能林業機械とあわせ、計画的かつ効率的な作業システムを構築し、併せて、「緑の雇用」制度の積極的な活用により、人材の育成確保、資格の取得推進に努める。

○間伐から主伐へ

利用間伐から皆伐へと着実に移行させていくため、

次期森林経営計画での主伐・再造林を計画的に進めます。また、松くい虫被害が進む松林については、積極的に生立木除去事業等を活用し、木質バイオマス燃料等として有効活用を図ってまいります。

○再造林による資源の循環

計画的伐採による支援制度の活用等により、再造林を低コストで確実に実行し、次代を見据えた森林資源の循環と地域活性化の一翼を担ってまいります。



人工林の3割を占めるアカマツは、町の有用な資源

※オペレーターはH20「緑の雇用」の採用

津山町森林組合

木材取扱目標 6,000m³の達成に向けて！

当組合の取扱量は、年間 3,700m³程度で推移してきましたが、今年度 6,000m³ を目標に、高性能林業機械を計画的に導入してきました。作業システムの基本は、チェーンソー(伐倒)＋ハーベスタ(立木の枝払い・玉切り・集積)＋フォワーダ(森林内運搬)＋グラップル付きトラック(運搬)によるものです。

機械類の整備とあわせて、林業の収益性改善を図る必要があります。町内の零細な所有規模では、間伐等の施業を効率的に実施することは難しい場合が多く、隣接する複数の所有者の森林を取りまとめて、路網整備や間伐等を一体的に実施する「施業の集約化」が欠かせません。今年度は間伐面積



『ハーベスタ』(左)のアタッチメントは、業界屈指の作業能力を誇るボンセ社製
『フォワーダ』(右)は、IHI社製「F801」(リース車両) ※今後導入予定

51ha(前年度 41ha)を計画し、施業集約化を進めながら、収益性の向上に取り組んでいきます。

若手作業員の育成(前号掲載)については、彼らによるハーベスタ(同 25 年度導入)を中心とした素材搬出チームの編成を今後検討し、作業道開設や伐採・搬出・運搬までのトータルの技術力をさらに高め、森林づくりのプロフェッショナルとして育て上げたいと考えています。

グラップル付きトラック(同 26 年度導入)は、チップ材や林地残材などのバイオマスが積み込める装備になって

いるため、資源利用を高めながら取扱量や収益の拡大につなげていきます。

シリーズ・ 森林づくりの技術

その③ 下刈りの効率化について

<下刈りの目的>

下刈りの目的は、植栽木の周りの雑草等を刈払って空間を空け、光を十分に入れて植栽木の生長を促すことです。

植栽木と競合して邪魔する草木を除くのが目的ではありません。

下刈りは不可欠な保育施業ですが、最も過酷な作業ですので、効果的に行いたいものです。

<いつやるの>

樹木が最も生長するのは、雨が降って日も長い「梅雨」時期とされ、下刈りの最適期は6～7月中旬となります。

<山は畑と違う>

ただ草木を除くだけなら、草木が伸びきった7月末以降でも良いですが、植栽木に光を当てるには遅くなってしまいます。

畑ならば雑草に養分を奪われる、という恐れがありますが、森林の場合は、雑草木は養分循環の一部を担っています。

<刈り高 30cm>

下刈りの刈り高は 10cm 程度が多いですが、30cm ぐらい残しても植栽木は十分成長できます。

登米市にもシカが増えてきました。30cm ぐらい残した方がシカの食害も軽減できるようです。

<下刈りの作業>



登米市 NOW!

平成 27 年度登米市特用林産物総合支援事業について ～『露地栽培原木しいたけ』の生産再開支援～

<生産再開の状況>

1 出荷制限の一部解除について

平成 24 年 4 月、本市において生産された露地栽培原木しいたけから、放射性物質の基準値を超える放射性セシウムが検出され、国から出荷制限の指示を受けました。

しかし、平成 26 年 8 月、「宮城県原木きのこ（露地栽培）栽培管理基準」により生産工程の改善に取り組み、生産されたしいたけが基準値以下であることが確認された市内の生産者について、県内で初めて出荷制限の一部解除が認められました。

現在は、生産者 4 名の出荷制限が解除され、安全な原木しいたけの生産を再開しております。

◎登米市の出荷制限一部解除生産者

生産者認証登録番号	生産者名	住所	解除日
26RS-001 ①・②	登米町森林組合	登米町	H26.8.26, H27.2.13
26RS-002 ①・②・③	千葉 公明	東和町	H26.8.26, H27.2.13, H27.6.4
26RS-003	芳賀 裕	東和町	H27.2.13
26RS-004	はんとく苑	米山町	H27.2.13

2 一部解除後の取り組みについて

平成 26 年 8 月 27 日に生産者・JA・市等で構成する「登米市露地栽培原木しいたけ生産推進協議会」を設立し、安全な原木しいたけの生産・出荷を推進しています。

生産を再開した露地栽培原木しいたけの PR を強化していくため、「復活！森林(もり)の恵み、原木しいたけ登米市」のCMを作成し、東日本放送主催の「2014 みやぎふるさとCM大賞」へ応募したところ、見事『銀賞』を受賞し、年間 40 回無料放送されることになりました。

平成 27 年 3 月 23 日には、「登米市露地栽培原木しいたけ出荷式及び消費者交流会」を開催し、露地栽培原木しいたけの収穫・初出荷を関係者で祝うとともに、生産者と消費者との交流を図りました。

復活！森林(もり)の恵み、原木しいたけ登米市

受賞作品は東日本放送ホームページに掲載中

検索 2014 みやぎふるさとCM大賞



多くの皆さんと出荷再開を祝いました！



<生産再開支援（補助事業）>

3 登米市特用林産物総合支援事業による支援について

原木しいたけ生産のためには、安全な原木を確保したり、人工ほだ場の整備や施設栽培を行うためのパイプハウス等の栽培施設を整備する必要があります。

市では特産品である原木しいたけ等、特用林産物の生産振興を図るため、農林業者等が行う機械・施設の整備や原木・種菌代等に要する経費に対し、予算の範囲内で補助金を交付しています。

■機械・施設等整備事業

パイプハウス等施設整備の補助
補助率：事業費の1/2以内
限度額：一事業1,000,000円

■生産資材等導入事業

椎茸原木等の生産資材購入の補助
補助率：事業費の1/3以内
限度額：一事業体500,000円



登米市特用林産物総合支援事業を活用して建てられた人工ほだ場、しいたけ原木

ふるさとの自然案内

登米市の多様な自然環境を象徴する、国立公園・県自然環境保全地域・登米市自然環境保全地域……。身近にある素晴らしい自然について、職員が実際に足を運び、その感想を交えて紹介していきます。

「宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター」
リニューアルオープン

「宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター（鳥館）」は、野鳥観察をはじめ、伊豆沼・内沼の自然環境についての調査研究や体験学習の中心となっています。

同センターは、幅広い方により分かりやすい展示内容にするため昨年の9月から改装工事に着手し、去る7月25日にリニューアルオープンしました。

1階は、床面に直径約16mの伊豆沼・内沼周辺の航空写真が配置され、その上を歩いて観察すると鳥になって上空から眺めているようで、よく見ると水田で餌を食べている野鳥の姿を見つけることもできます。

その航空写真の上には伊豆沼・内沼の形をしたテーブルがあり、工夫を凝らしたリアルな展示物は、小さなお子さんから大人の方まで、五感を使って楽しく伊豆沼・内沼の自然について学んでいただけたと思います。



2階は少し大人向けの内容で、ビューラウンジではフィールドスコープやライブカメラで野鳥を観察することができるほか、展示室には様々なグラフィックや標本などが設置され、伊豆沼・内沼の歴史や人と自然とのかかわり、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の最新の研究成果などを分かりやすく学ぶことができます。

また、2階の一角には農家レストラン「お食事処四季味」があり、地元産の安全・安心な食材を使った美味しい料理を提供しています。

これからが野鳥観察のシーズンです。リニューアルした「サンクチュアリセンター」に、是非足を運び下さい。[ぶんぶん]

【場 所】 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味 17-2 / Tel 0228-33-2216
 【休館日】 毎週月曜日（月曜日が国民祝日にあたる場合は、その翌日）
 祝日の翌日、年末（12月29日～12月31日）
 【お食事処四季味】 営業 3～10月：日祝、11～2月：土日祝 11時～14時
 ※念のため営業日を御確認下さい。/Tel 0228-33-2249

シリーズ・インタビュー ヤマで働く！

現在、植林や間伐など森林の造成や整備に従事する人々は県内でわずか 1,400 人ほどですが、こうした方々の活躍が、本県の全国有数の木材生産や多様な森林機能の発揮を支えています。このコーナーでは、そのような「普段はあまりお目にかかれないけれど、実は私たちの豊かで安全・安心な生活を支えている」ヤマのプロフェッショナル達をシリーズで紹介しています。

林業の現場から（第3回）

東和町森林組合 作業班
いわぶち せいいち
岩 瀨 誠 一 さん



家族思いで優しい岩瀨さん

岩瀨さんは平成 18 年度の「緑の雇用」研修の修了生で、30 歳の時に当時の最年少で森林組合に入りました。10 年目となった今では、若手の多い組合の中でベテランと呼ばれるようになっています。

バックホウ、ハーベスタ、フォワーダといった、組合で所有する高性能林業機械をすべて扱うことができる、組合の中でも貴重な存在です。

「最初は怖かったけど、慣れるしかないね」

取材に伺った時は、間伐に入るための作業道を作設しているところでした。

今ではどんな機械も操作できますが、初めてハーベスタに乗ったときは、やはり怖かったとのこと。県で実施した「ハイパー林業技能者育成研修」等の研修に参加しながら、腕を磨いてきました。

「自分で作った道路が数年後もしっかり残っているか、見るのが楽しみです。」

仕事のやりがいを探ねると、笑顔でこうおっしゃっていた岩瀨さん。

木材を伐採して搬出するには、山に道路（作業道）を開設する必要がありますが、その場限りのやり方で作ってしまうと、再び山に入ろうとした時には、壊れて利用できない作業道になっている可能性があります。

岩瀨さんは、森林整備を持続的に行っていくことを考えて、丈夫で壊れにくい、安心安全な作業道づくりを常に心掛けているそうです。



今日の作業道の出来具合は…？

山に自分がイメージしたとおり作業道を入れられた時には、「やった！」と達成感を感じるそうです。ちなみに、今回の作業道は、「イメージどおりに作れた」とのことでした。

「これだけ山に囲まれている所なので、地元住民としても、きれいな山にしていきたいんです。」

岩瀨さんは 30 歳まで登米町で働いていましたが、家族と一緒に過ごし、地元の東和町で働きたいという思いから、転職を決めたそうです。

人手不足は林業の現場が抱える大きな課題。地元東和町の広大な森林を後世に引き継いでいくためにも、若い人にもっと林業の現場に入ってもらって、一緒に山の手入れをしたい、とおっしゃっていました。



今回取材させていただいた岩瀨さんは、大変物腰が柔らかい方で、現場のことなども色々と丁寧に説明して下さいました。

今後も地元東和町の森林を美しく保っていくため、組合の第一線でますますご活躍され、その高い技術力を若手の方々に継承していただきたいと思います。貴重なお時間を頂戴し、大変ありがとうございました。

（インタビュアー）

県登米地域事務所 技師 大内 環

林業や森林組合への就業については、最寄りの森林組合、または（公財）宮城県林業活性化基金（県森林組合連合会内）電話 022-217-4307 までお問い合わせください。

トピックス 野鳥の渡来シーズンが近づきました！

【登米市・県民の皆さまへ】

豊かな自然環境に恵まれた登米市には、越冬のため、多くの野鳥が飛来します。

例年、多くの方が野鳥観察を楽しめますが、その際に心がけていただきたいことがあります。



野鳥との接し方について

野鳥は自然界の中で生活していますので、野鳥に近づきすぎたり、おどかしたりすることはやめましょう。

また、一般的に野生動物は清潔ではありません。

野鳥やその排泄物には直接触れないよう注意しましょう。

もし、排泄物等に触れた場合は、手洗い・うがい・靴底をきれいにしましょう。
(野鳥観察施設には、靴底の消毒槽が設置されているところもあります。)



鳥インフルエンザについて

野鳥は、車や建物に衝突したり餌が採れずに衰弱して死んでしまうことも多いので、そのような野鳥がいたとしても、直ちに鳥インフルエンザを心配する必要はありません。

死んでいる野鳥を見つけた場合は、下記の対応にご協力をお願いします。

- 外傷がある場合・・・「一般ゴミ」となります。処分する際は、素手で触らないよう、手袋などを使ってビニール袋に入れて下さい。
- 外傷がない場合・・・ 登米市産業経済部農林政策課または宮城県登米地域事務所林業振興部へご連絡ください。



- 鳥インフルエンザウィルスは、通常の野鳥観察などの接し方では、ヒトに感染しないと考えられています。
- 正しい情報に基づいた、冷静な行動をお願いします。



餌づけについて

餌づけは、野生動物がそれらの食べ物に依存したり、人慣れが進むことにより増えすぎて、農作物を食害することになったり、渡りの時期を遅らせるなど、生態系を乱す原因となります。

また、本来の食性とは違うパンや菓子を摂取することで、健康状態に悪い影響を及ぼす可能性もあります。

野生動物は、静かな環境が一番です。安易な餌づけはせず、静かに見守りましょう。

河川敷で草を採食するハクチョウの群れ

皆さまの御協力をよろしくお願いします。

コラム：目で見える登米の森林・林業

「本当にスゴイ!? 登米の森林・林業」

－ オフセット・クレジットの取組先進地 －

オフセット・クレジットは、地球温暖化の防止や社会全体で森林整備を支える環境省認証の仕組みです。認証を受けたクレジットの販売で得た収入は、新たな森林整備に活用することで、森林のCO2 吸収の促進につながります。

登米地域はこの取組の県内一の先進地で、登米市と米川生産森林組合が合計で 5,958t-CO2(県全体の 65%)のクレジットを取得しており、環境貢献への取組を率先的に進めている企業・団体様から、多数ご購入頂いております。



オフセットできる CO2 量はステッカー 1 枚で 10kg-CO2
[参考] ガソリン 1 ㍓ 当たり CO2 排出量 = 2.32kg-CO2 (環境省)

■ オフセット・クレジット付きステッカー

一人一人が日常生活で排出するCO2削減の取り組みを推進するため、「登米地域森林吸収オフセット・クレジット普及広報連絡会議」で製作しました。

地球温暖化の防止や自然環境の保全推進に、ご活用下さい。

※価格 1枚 324円(税込)

※販売先 登米市内道の駅、米川生産森林組合、登米市産業経済部農林政策課 など

平成27年度県産材利用促進功労者表彰 (みやぎ木づかい表彰)

この制度は、県産木材の利用推進などに顕著な功績があったと認められる個人・団体を県が表彰するものです。今年も、登米市及び登米町森林組合の取組「地元材のコナラを活用した学童用機の製造と利用」が受賞しました。

10月13日に宮城県庁で表彰式が行われ、知事から感謝状が贈られました。

[功績]

地域の豊かな広葉樹資源の持続的な利用、地域産業の振興を図るため、森林組合では、補助事業なども活用しながら、加工が難しいとされるコナラ材を使用した「学童用機」の製品化を進めてきました。

市有林のコナラを使い、森林組合と木工会社が工程を分担して製作を担当し、機の完成まですべて地元で行います。

市教育委員会の協力を得て中学校でのモニタリング調査を積み重ね、今年4月には「宮城県グリーン製品」の認定も取得しました。

市では、地域材の利用と次代を担う子供たちの教育環境を整える点から、今年から4年間で市内の全小中学校への配置(31校、6,300台)を決定しています。



授業風景(登米中学校)

編集後記

- 「ハイ！こちら森林組合！」では、『森林づくり』をテーマに、各森林組合の取組を自由に書いて頂きました。
- 森林の維持管理に必要な林業従事者については前号で紹介したとおりですが、現下の労働力の状況や生産性及び労働安全衛生の面からも、高性能機械の導入は必須です。一方で、これら導入した機械の作業システムをしっかりと検証(構築)し、フル稼働化を図り、収益性向上を目指し取組を積み上げていくことは重要です。
- 県森林組合統計によれば、管内森林組合の組合員が所有する森林面積は、全体の87%におよび、県内一の割合です。森林組合の役割は重要で期待も高く、当地域の林業と森林を守れる組織は、森林組合に他ならないと考えます。
- 関係機関が一体となり、登米の『森林づくり』を推進！その状況は本誌で紹介してまいります。

印刷に伴い排出された温室効果ガスは、宮城県内の森林整備により創出されたJ-VERクレジットによりカーボン・オフセットされています。

登米の森林から 第3号 2015年10月
宮城県東部地方振興事務所 登米地域事務所 林業振興部
〒987-0511 登米市迫町字西佐沼 150-5



バックナンバー

検索

登米地域事務所 登米の森林から